

令和4年度 調布市立滝坂小学校 学校評価報告書（校長 小林 美也子）

学校の教育目標				
◎よく考え すすんで学習		○強いからだ やりぬく心	○人に親切 仲よく協力	(◎)今年度の重点)
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像、教員像、児童・生徒像				
目指す学校像【「つくる」「つながる」「つたえる」学校】 ◇「つくる」……児童が変化する社会を主体的に生きるために必要な資質・能力を育成する教育活動を創造する。 ◇「つながる」…①児童の学びと成長のために、教職員・児童・保護者・地域がつながる。 ②互いに学び合い、助け合い、高め合いながら教育活動を進められるように、教職員同士がつながる。 ◇「つたえる」…透明性の高い学校を目指し、教育活動の取組を積極的に保護者、地域に発信する。				

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>				
	1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)	
自己評価	(1) 具体的な取組 ①主体的に考え、議論する道徳授業を年間 25 の価値項目で展開する。	評価 A	(1) 具体的な取組 ①授業規律を校内で統一し、定着を図る。秩序ある落ち着いた学習環境の中で児童の「よく考え」「真剣に学ぶ態度」を育成する。	評価 A
	②月1回の校内委員会及び週1回の生活指導夕会で情報共有を十分に行い、全教職員による児童への組織的対応を行う。	評価 B	②週案を作成し、授業時数の確保に努める。計画的・意図的に指導を行うとともに、日々の振り返りを必ず行い、授業力を向上させる。	評価 B
	(2) 成果(数値目標に対して) ①道徳の授業において、年間 25 の価値項目すべてを指導することができた。	評価 A	(2) 成果(数値目標に対して) ①保護者アンケート「学習のルールが守られている」95%	評価 A
	②保護者アンケート「楽しく充実した学校生活を送っている」95%	評価 A	②保護者アンケート「工夫してわかりやすい授業」89%	評価 B
	評価 学校関係者	・コロナ禍で人間関係が希薄になりがちだが、道徳の授業や生活指導の成果を感じられ、児童は皆仲良く過ごしている。 ・児童は礼儀正しく、充実した学校生活を送っている。学校全体の雰囲気が温かく感じられる。	・各学級とも学習規律が浸透し、落ち着いている。児童がよく考えて、積極的に授業に取り組んでいる。 ・先生方はコロナ禍において教材研究を工夫していた。ICT 機器の活用については、今後も研修を続けてほしい。国語教育の更なる充実にも期待している。	・全体に挨拶ができる。生活習慣の確立については家庭と協力しながら進めていくのがよい。 ・コロナ禍で運動量が減っているのではないかと心配だったが、体力向上に向けた学校の取組が感じられた。今後も一層推進してほしい。
	評価 学校関係者			
学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>				
	4 保護者・地域との連携	5 言語環境の充実・読書活動の推進	6 特別支援教育の推進	
自己評価	(1) 具体的な取組 ①ホームページによる発信を適宜行い、保護者・地域に日々の教育活動を周知する。	評価 A	(1) 具体的な取組 ①児童が日常的に様々な言葉に触れ、言葉に興味をもつ環境づくりを行う。	評価 B
	②地域学校協働本部を生かし、地域の外部人材を有効活用する。	評価 B	②読書に関する計画を年度当初に立て、読書活動の推進を図る。	評価 A
	(2) 成果(数値目標に対して) ① HP を毎日更新することができた。	評価 A	(2) 成果(数値目標に対して) ①言葉に関する校内掲示を計画的に実施できた。	評価 B
	②「地域と協力した教育活動」95%	評価 B	②「図書館の活性化・読書活動の推進」96%	評価 A
	評価 学校関係者	・毎日ホームページを楽しみにしている。学校の様子がよく分かる。これからも続けてほしい。 ・地域の方が学校に大変協力的である。焦らずにできることを一つ一つ行つていってほしい。	・各階の「言葉のコーナー」が充実しており、児童は日頃から様々な言葉に親しんでいる。 ・地域の「ダンボの会」の協力もあり、滝坂小全体に読書に親しむ文化が定着している。	・コロナ禍による制限はあったが、授業や行事での交流を行うことができた。今後は交流方法の工夫を考えていってほしい。 ・通級の指導が支援につながった。
	評価 学校関係者			

人材育成・組織運営				
自己評価	ア) OJT の充実………主幹教諭をリーダーとし、若手教員を対象とした OJT 研修を毎月 1 回定期的に実施し、着実に成果が上がっている。 イ) 校務分掌の計画的推進………「運営委員会」を中心とした組織運営が功を奏した。職員会議・職員夕会の回数を減らし、合理化を図ることができた。 ウ) 服務規律遵守の徹底………計画的に研修を実施し、服務事故〇を達成した。服務規律を遵守することの大切さを周知できた。 エ) ライフ・ワークバランスの推進… SSS や副校長補佐、校務支援システム、ボランティア等を有効活用し、在校時間の更なる縮小を図ることができた。			
者評価	・OJT 研修によって、先生方が互いの得意分野を生かして授業力を向上させていることが分かった。OJT の内容も多岐にわたっていて効果的であった。 ・研究熱心でまじめな教職員が多く、服務規律がしっかりと守られている。 ・教員によっては仕事熱心なあまり在校時間が長いのではないか。地域力を活用して、より一層の在校時間の縮小を図つてほしい。			

中期的な経営目標の達成状況				
1	・道徳は、25 の価値項目で十分に指導できた。今後は全教育活動の中で道徳教育の充実を図ることができるよう、計画的に指導していく。			
2	・国語科の校内研究を行うことで、「よく考え」「真剣に学ぶ態度」は育成できている。全教員が効果的に ICT 機器を活用した授業を行えるように研修していく。			
3	・望ましい生活習慣の定着は挨拶を含め定着しつつあるが、今後もご家庭の協力を得ながら指導していく。運動量の確保は引き続き課題である。			
4	・地域の人材についてはできる範囲で活用することができたが、ネットワークを駆使してより一層人材の確保を図っていく。			
5	・言語環境の充実・読書活動の推進は、これまでの積み重ねがあるため順調に進んでいる。今後も教育活動全体を通して進めていく。			
人・組	・授業力は確実に向上しているが、OJT 研修を充実させ一層の向上を図りたい。校務分掌の改革は成功し、働き方改革の推進につながっている。			
次年度の重点課題				
○一人一台モバイル端末や ICT 機器の効果的な活用と授業力向上 ○運動量の確保、運動の日常化 ○校内研(書くこと)・OJT 研修の一層の充実				